

令和2年度(第64回)岩手県教育研究発表会
特設分科会2「校種間におけるカリキュラム・マネジメント」

新設教科「地域創造学」を中核とした教育課程等の開発による社会的実践力の育成

—小・中・高等学校の滑らかな接続を活かして—

日時: 令和3年2月9日(火)

場所: 花巻温泉ホテル花巻 胡四王

○住田町について

- ・人口・・・5234人（令和2年11月末時点）
- ・総面積・・・335km²（うち森林面積303km²）
- ・産業・・・森林・林業、農業等がさかん
- ・豊かな自然・・・五葉山、種山、気仙川等
- ・町内の小中高5校と今年度生徒数

世田米小学校（99名）

有住小学校（68名）

世田米中学校（63名）

有住中学校（33名）

県立住田高校（86名）

☆町内5校がそれぞれ独自に、
森林環境学習や国際理解教育等、
地域との関わりを大切にした
教育実践を行ってきた。



有住中学校1年 種山散策

地域に根付く特色ある産業や豊かな自然、
人々の営み全てを教育資源として活用した
小・中・高のつながりのある学びの実現

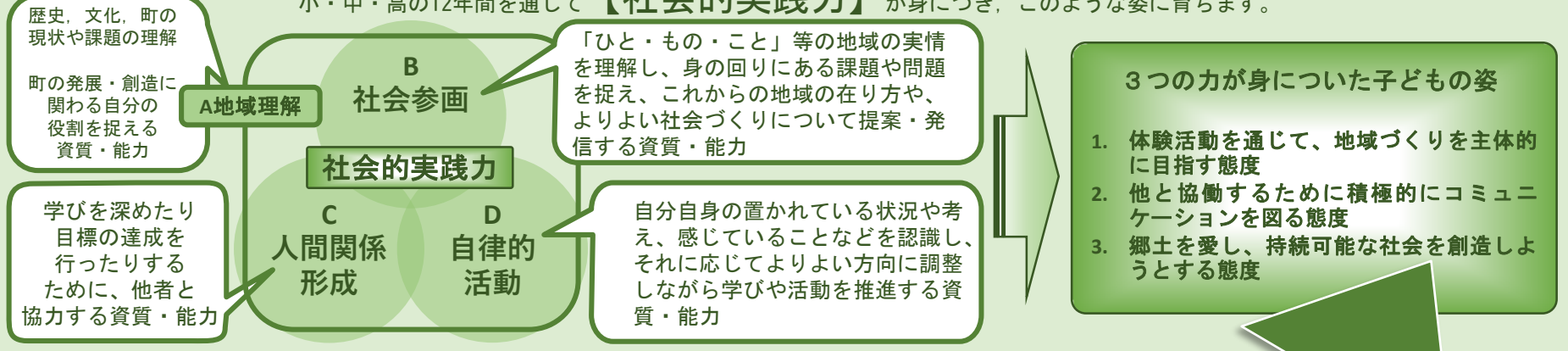


新設教科「地域創造学」の創設

住田町研究開発グランドデザイン

～第9次住田町教育振興基本計画 基本目標～
生涯学び続け、新しい時代を切り拓く心豊かな人材育成

小・中・高の12年間を通して【社会的実践力】が身につき、このような姿に育ちます。



そのために住田町では、平成29年度から4年間にわたり、文部科学省・研究開発学校指定の教育活動を推進しています

新設教科【地域創造学】

【目標】

住田町及び近郊地域社会をフィールドにした横断的・総合的な学習を、探究的な学習活動を意図的・計画的に行うことを通して、新しい時代を切り拓き、社会を創造していくための社会的実践力を身に付けた心豊かな人材を育成することを目指す。

横断的・総合的で探究的な学びの実現

- 探究のプロセスを6つの要素に整理

地域との協働

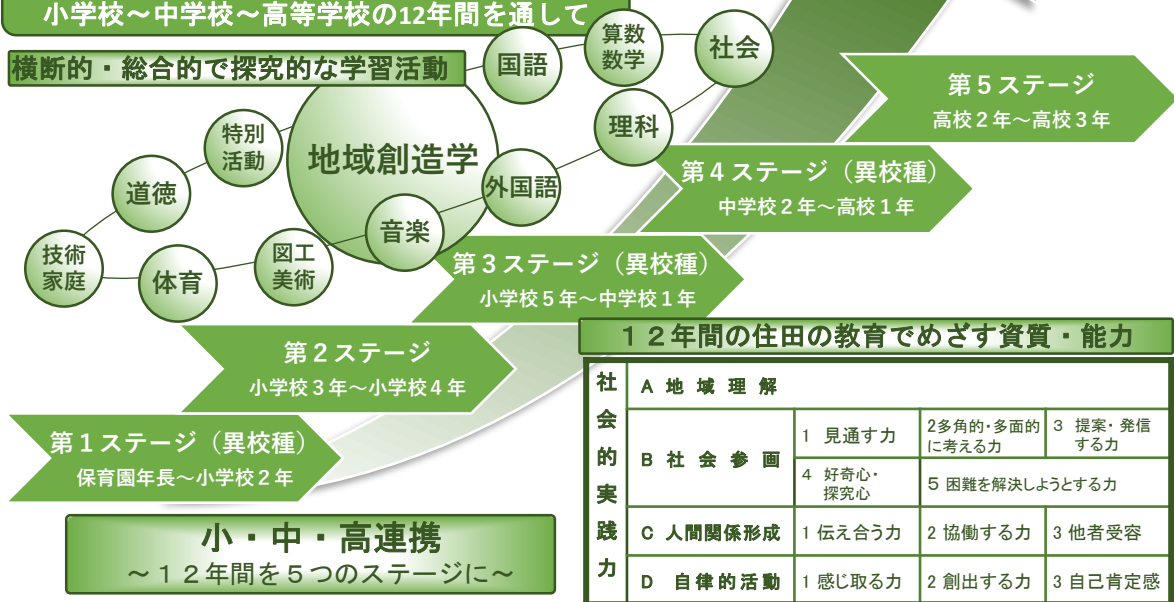
- 地域創造学の目標を町民と共有
- 外部人材の活用



～住田の教育のしくみ～

小学校～中学校～高等学校の12年間を通して

横断的・総合的で探究的な学習活動



小・中・高連携

～12年間で5つのステージに～

○研究開発学校指定による教育課程の特例

※令和２年度の特例

- ① 小学校では、生活科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間を減じて、「地域創造学」を**１年生１０６時間、２年生１１０時間、３、４、５、６年生では８５時間**設定。
- ② 中学校では、全学年において、道徳、外国語及び総合的な学習の時間を減じて「地域創造学」を**１年生で６２時間、２、３年生では８２時間**設定。
- ③ 高等学校では、１学年においては総合的な探究の時間を減じて、２・３学年においては総合的な学習の時間を減じて、「地域創造学」をそれぞれの学年で**１単位３５時間**設定。

○新しい時代を切り拓くために必要とされる資質・能力（社会的実践力）の規定

「社会的実践力」＝

子どもたちが変化の激しい社会において、充実した人生を実現していくために、**豊かな心を持ち、自ら主体的に未来の社会を創造していくことのできる力**

【社会的実践力】児童生徒が変化の激しい社会において、充実した人生を実現するために、豊かな心を持ち、主体的に未来社会を創造していくことができる力

☆ 汎用的スキル ★ 態度・意欲・学びの価値

A 地域理解

自分たちの地域の歴史や文化、現状や抱えている課題、活用資源を理解し、ふるさとに愛着をもちながら町の発展・創造に関わる自分の役割等を捉える。

B 社会参画に関する資質・能力 「ひと・もの・こと」等の地域の実情を理解し、身の回りにある課題や問題を捉え、これからの地域の在り方や、よりよい社会づくりについての提案・発信に関する資質・能力	1 ☆見通す力	【☆見】	自分や集団にとっての課題や問題を発見し、その解決方法を見いだす問題発見力。情報を適切に活用する力。目標の達成に向かって解決の道筋を見通し計画する力。
	2 ☆多面的・多角的に考える力	【☆多】	根拠を明確にししながら様々な見方や考え方で検討する力。批判的思考力。考えや解釈の妥当性を考える力。予測し判断する力。
	3 ☆提案・発信する力	【☆提】	地域への愛着を持ち、よりよい社会づくりに向けた取組を提案する力。解決策や考えたことについて効果的な発信方法を考える力。新しい視点や価値観を生み出す力。
	4 ★好奇心・探究心	【★好】	身の回りや地域の事象に興味関心を持つ態度。もっと知りたいと思う心。知りたいことや解決したいことをみつけようとする姿勢。
	5 ★困難を解決しようとする心	【★解】	失敗してもあきらめずに挑戦しようとする心。集団の仲間とともに困難な場面に直結しても粘り強く取り組み、最後までやり遂げようとする姿勢。
C 人間関係形成に関する資質・能力 学びを深めたり、目標の達成を行ったりするために、他者と協力することに関する資質・能力	1 ☆伝え合う力	【☆伝】	調べたことや自分の考えを伝える力。視覚的に伝え方を工夫する力。気持ちや感じたことなどを伝える力。双方向的に伝え合う力。
	2 ☆協働する力	【☆協】	目標達成に向かって、他者と協力して活動できる力。議論し合ったり、集団活動を統制したりする力。
	3 ★他者受容	【★受】	多様な他者の考えや価値観、立場を受け入れる態度。相手を尊重したり敬意を抱いたりする心。
D 自律的活動に関する資質・能力 自分自身の置かれている状況や考え、感じていることなどを認識し、それに応じてよりよい方向に調整しながら学びや活動を推進することに関する資質・能力	1 ☆感じ取る力	【☆感】	自己の現在の姿を見つめる力。考えや発想、思いを自分自身で捉えたり、捉え直したりして、これからの自分の学びや活動をよりよいものに調整しようとする力。
	2 ☆創出する力	【☆創】	出会う「ひと・もの・こと」に触れて面白さや楽しさ、よさを感じ、自分なりに表現する力。新しい表現の仕方を生み出したりする力。
	3 ★自己肯定感	【★肯】	学びの過程や活動を省察したり、最後までやり遂げた達成感を味わったりしながら自分のよさを捉える心。自分の可能性を前向きに受け止め、より高いもの・よりよいものを目指して取り組もうとする態度。

各ステージにおける社会的実践力の系統表

汎用的スキル		★態度・意欲・学びの価値																		
資質・能力の分類		A～Dに関する各資質・能力とその定義			第1ステージ			第2ステージ		第3ステージ			第4ステージ			第5ステージ				
					年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3			
A	地域理解	自分たちの地域の歴史や文化、現状や抱えている課題、活用資源を理解し、ふるさとに愛着をもちながら町の発展・創造に関わる自分の役割等を捉える。			身近な「ひと・もの・こと」との関わりを通して、自分たちの住んでいる場所のよさとして受け止めることができる。			地域の人々の暮らし、生活の知恵や伝統など、住田固有のよさについて理解を深め、それらを大切に地域に積極的に関わることができる。		住田の歴史、文化、産業、先人などに関する住田ならではのよさや文化遺産を通して受け継がれているものを捉え、自己の生き方のかかわりで考え続け、更に発展させていこうと取り組むことができる。			地域の発展に貢献した先人の業績や、経済や産業などの現状を踏まえ、住田固有のよさを継承したり、現在住田町が抱えている課題について、よりよい解決を目指したりするなど、積極的に地域の一員として生きる自分を自覚しながら取り組むことができる。			地域の「ひと・もの・こと」とつながりながら、これからの町づくりについて考えを深め、住田で学び、暮らし、暮らしていることに誇りを持ち、地域社会の一員として住田町の発展に寄与することの大切さを捉え、取り組むことができる。				
	社会参画に関する資質・能力	1	☆見通す力	【☆見】	自分や集団にとっての課題や問題を発見し、その解決方法を見いだす問題発見力、情報を適切に活用する力、目標の達成に向かって解決の道筋を見通し計画する力。			身近な「ひと・もの・こと」について思いや願いを持ち、その実現に向けて、目標を自ら設定して計画を立てたり、手順を考えたりしながら、取り組むことができる。		自分が見出した課題に対して根拠のある予想や仮説をもちながら、解決方法を考えたり、自分の考えを絶えず見直し検討したりすることができる。			これからの地域の在り方に願いを持ちながら、抱えている複雑な問題に対して、様々な情報から因果関係を見出し、地域の人々や仲間とともに解決に向けての方向性や取組を検討し、判断することができる。							
	「ひと・もの・こと」等の地域の実情を理解し、身の回りにある課題や問題を捉え、これからの地域の在り方や、よりよい社会づくりについて提案・発信することに関する資質・能力	2	☆多面的・多角的に考える力	【☆多】	根拠を明確にしながら様々な見方や考え方で検討する力。批判的思考力、考えや解釈の妥当性考える力、予測判断する力。			具体的な遊びや活動体験を通して、心と体を一体的に動かしながらあれこれ思いを巡らして活動に取り組む、自分なりにその価値を意味付けたり価値付けたりすることができる。		課題を解決するために、共通点や差異点を基に比較したり、根拠をもって関係付けたり、条件付けたり、多面的に調べたりしながら、妥当性のあるよりよい考えを見出すことができる。			課題を解決するために、調べた情報や考えなどを関係性や特徴などについて分析して解釈し、より妥当な考えを作り出すことができる。							
		3	☆提案・発信する力	【☆提】	地域への愛着を持ち、よりよい社会づくりに向けた取組を提案する力。解決策や考えたことについて効果的な発信方法を考える力。新しい視点や価値観を生み出す力。			周囲の「ひと・もの・こと」と関わりながら、楽しかったことや感じたことを絵や言葉などで表すことができる。		捉えた町のよさがよりよく伝わるように、様々な方法のまめ方々を学び、発信方法を広げることができる。			持続可能な社会づくりの視点から、これからの住田町にとって必要な事柄や対策について具体的に提案し、自分たちの発信後の効果を想定しながらよりよい発信方法を工夫して、地域から広がりのある発信をすることができる。							
		4	★好奇心・探究心	【★好】	身の回りや地域の事象に興味関心を持つ態度。もっと知りたいと思う心。知りたいことや解決したいことをみつつけようとする姿勢。			自分を取り巻く「ひと・もの・こと」に自発的な関心に向け、それを自分自身にとって意味のあるものと感じ取り、積極的に関わろうとしている。		周囲の「ひと・もの・こと」に自発的な関心に向け、それを自分自身のかかわりで意味付けをしながら、自分で取り組むべき課題を見出そうとしている。			周囲の「ひと・もの・こと」に関して自分が見出した課題について、主体的に学習活動を展開し、自分なりに納得できる答えを探し求めていこうとしている。			唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよい問題を解決しようとする。				
		5	★困難を解決しようとする心	【★解】	失敗してもあきらめずに挑戦しようとする心。集団の仲間とともに困難な場面に直結しても粘り強く取り組み、最後までやり遂げようとする姿勢。			興味・関心のあることだけでなく、自分のやるべきことをしっかりと行い、やり遂げた喜びを味わう経験を積み重ね、自分にとって難しいと思うことでも最後までやり遂げようとする。		困難な場面に直面しても、共通の目的に向かって仲間と共に粘り強く取り組み、失敗してもその経験を生かしながら最後までやり抜こうとする。			目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならずとも挑戦し続けることが日々の生活を充実させていくことにつながることに気付き、社会の発展を支えていこうとする。							
		C	人間関係形成に関する資質・能力	1	☆伝え合う力	【☆伝】	調べたことや自分の考えを伝える力。複眼的に伝え方を工夫する力。気持ちや感じたことを伝える力。双方目的に伝え合う力。			地域の出来事や自分の生活等について、身近な人々や思いや考えを伝え合い、関わるのが楽しきことが分かり、進んで交流することができる。		丁寧に理由付けしたり、事例をあげたりしながら、自分の考えを伝えることができることも、話し相手の伝えたいことや自分の聞きたいことの中心を捉えて聞き、考えを伝え合うことができる。			資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、互いの立場や意図を明確にしながら伝え合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。			自分の考えが伝わるように、場の状況や判断しながら言葉を選ぶなどの適切な働きかけを行ったり、様々な立場や考え方を尊重しながら他者の考えを受け止めて相互理解を深めることができる。		
学びを深めたり、目標の達成を行ったりするために、他者と協力することに関する資質・能力	2		☆協働する力	【☆協】	目標達成に向かって、他者と協力して活動できる力。議論し合ったり、集団活動を統制したりする力。			友達や身近な人々と楽しく活動する中で、共通の願いや目的を見い出して、工夫したり協力したり、問題を解決しようとしたりすることができる。		共に活動する仲間等と、互いの思いや願い、考えを交流しながら、力を合わせて取り組むことができる。			共通の目標に向かって、仲間や関わる人々の中で、自分の立場や果たすべき役割を果たしながら、様々な活動に積極的に活動することができる。			様々な集団での活動において、活動する意義や目標を捉え、互いに協力し励まし合う関係を築き、その中で自分の役割や責任を自覚し集団の一員として活動することができる。			様々な集団での活動において、集団の一員として、よりよい活動や生活に寄与できるような自分自身の在り方を振り返り、所属感を高めながら取り組むことができる。	
	3		★他者受容	【★受】	多様な他者の考えや価値観、立場を受け入れる態度。相手を尊重したり敬意を抱いたりする心。			身近な人々と一緒に活動する経験を積み重ねることにより、相手にも思いや考えがあることに気付き、仲良く活動することの楽しさや助け合うことの大切さを感じ取っている。		地域の人々や仲間の思いや願い、考えを大切に受け止めて、自分の異なる意見や考えについて、その背景にあるものを考えながら大切に捉えている。			地域の人々や仲間の思いや願い、考えを共感的に受け止め、いろいろな見方や考え方をあることを理解し、広い心で異なる意見や立場を尊重しようとしている。			関わる人々について様々な個性や立場を尊重し、広い視野に立ってものの見方や考え方をあることを理解し、よりよいものを求めようとする。			自己の思いや意見を適切に伝え、他者の主張を的確に理解し、自分自身を高めながら他者と共に生きることを意味を捉えている。	
D	自律的活動に関する資質・能力	1	☆感じ取る力	【☆感】	自己の現在の姿を見つめる力。考えや発想、思いを自分自身で捉えたり、捉え直したりして、これからの自分の学びや活動をよりよいものに調整しようとする力。			関わる「ひと・もの・こと」と自己を結び付けながら問い直したり、自分の生活とのつながりを見出したりして自らの生活を豊かにしようすることができる。		課題の解決に向けた取組の進捗状況振り返り、自分の感性や創造性を発揮しながら、発想したり創意工夫したりすることを楽しむことができる。			課題の解決に向けた取組の進捗状況を振り返り、目的を捉え直したり自分の考えの妥当性を検討したりして、自分にとってよりよい達成を目指すことができる。			様々な観点から課題の解決や目標の実現状況を捉え、物事の本質を見極めながら、よりよい自己実現に向けて探究することができる。			様々な観点から課題の解決や目標の実現状況を捉え、物事の本質を見極めながら、よりよい自己実現や生き方を志向し探究することができる。	
	自分自身の置かれている状況や考え、感じていることなどを認識し、それに応じてよりよい方向に課題を推進することに関する資質・能力	2	☆創出する力	【☆創】	出会う「ひと・もの・こと」に触れて面白さや楽しさ、よさを感じ、自分なりに表現する力。新しい表現の仕方を生み出したりする力。			自分の感性や気持ちを表すことを楽しんだり、表現を通して対象との関係を作り上げて楽しんだりすることができる。		感じたことや考えたことをもとに、自分の感性や創造性を発揮しながら、発想したり創意工夫したりすることを楽しむことができる。			目的や条件等を踏まえて、感じたことや考えたことをもとに自分の感性や創造性を発揮しながら、発想したり構想したりして、自発的に創意工夫して表すことができる。			感じたことや考えたことをもとに、新たな発想やイメージを広げたり生み出したりするなど構想を練り上げて、創造的に表すことができる。			目的や意図に応じて自分の考えを表現する方法を創意工夫し、豊かな感性を育みながら創造的に表現することができる。	
		3	★自己肯定感	【★肯】	学びの過程や活動を省察したり、最後までやり遂げた達成感を味わったりしながら自分のよさを捉える心。自分の可能性を前向きに受け止めて、より高いもの、よりよいものを目指して取り組もうとする態度。			自分でできるようになったことや生活の中での自分の役割が増えたことを喜び、前向きに過ごそうとする気持ちを持っている。		自分のことは自分で行い、よく考え判断して行動し、自分のよさや可能性に気付き、よい所を伸ばそうとする。			目標を持ち、自分のよさや持ち味を発揮しながら、その実現に向かって努力し、自分にとって学ぶことの意味や価値を見出し、自分の生き方につなげて考えようとする。			自分を見つめ、より高い目標に向かって着実にやりぬ強い意志を持って取り組み、学習の成果から達成感や自信を持ち、自分のよさや可能性に気付き、自分の人生や将来、職業を考えていこうとする。			これまでの学習を通して自分に身に付いた力を客観的に見つめ、自信を深めるとともに、将来の人生設計に生かしていくために必要な進路選択を主体的に自己決定しようとする。	

○単元計画の作成（6年生の単元例）

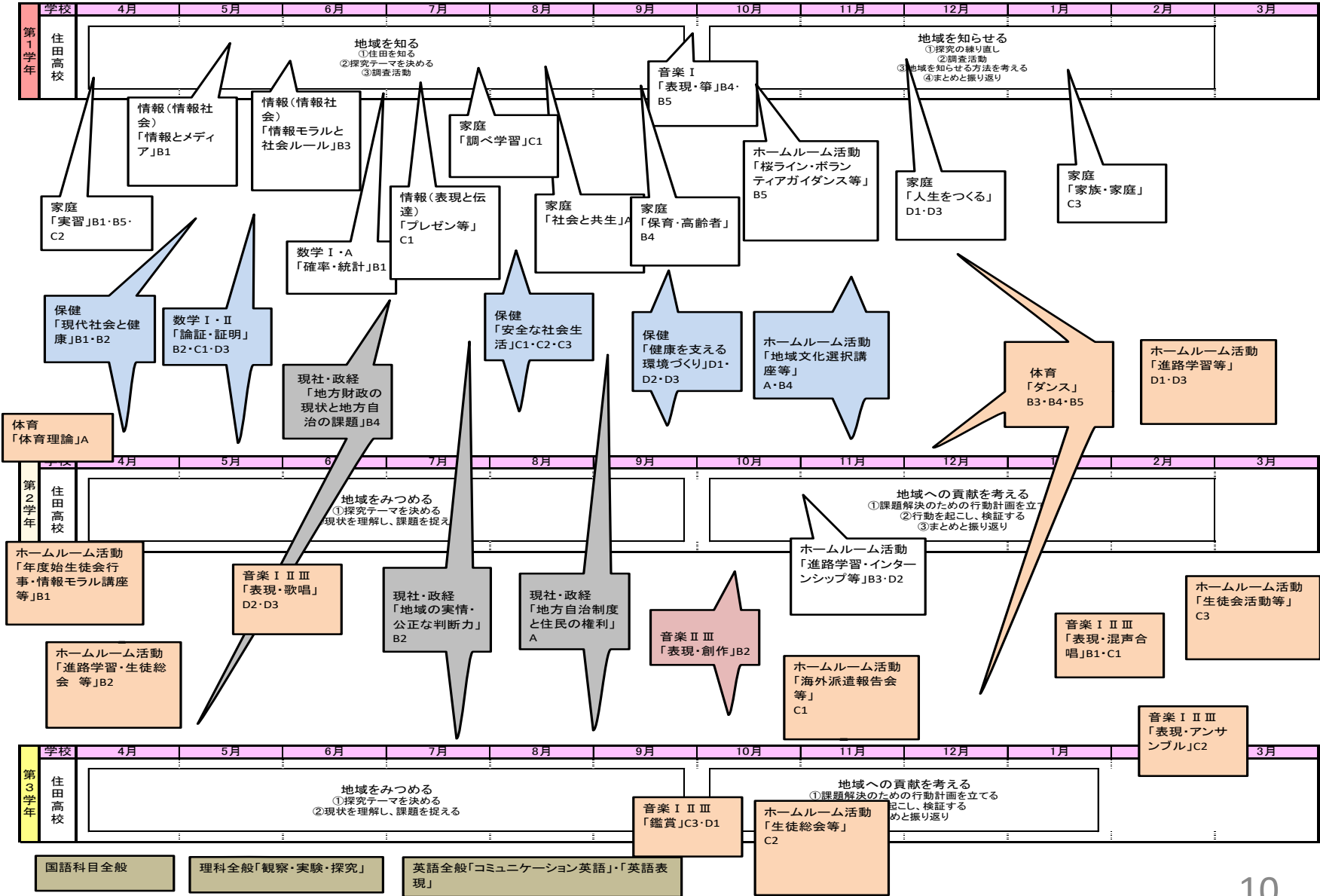
単元名		考えよう 私たちの町の未来		【第6学年：第2単元】	
単元の目標					
		資質能力の分類		資質能力別の分類	
社会的実践力	A【地域理解】		○住田町の町づくりの取組の課題やこれからの取組、携わる人たちの思いについて理解することができる。		
	B【社会参画に関する資質能力】		○町づくりの取組の課題やこれからの取組を調べ、その意味について考えたり、住田町の町づくりについての自分の思いを表現したりすることが		
	C【人間関係形成に関する資質能力】		○互いに意見を出したり様々な考えを受け止めたりして、これからの町づくりについて協力しながら調べたり、考えたりすることができる。		
	D【自律的活動に関する資質能力】		○町づくりの取組の課題やこれからの町づくりについて、自分の探究の様相を振り返ったり調整したりして探究することができる。		
評価規準					
		資質能力		評価規準	
		A ◎地域理解		・ 事実に基づきながら町づくりの取組の課題や解決に向けた取組のよさを理解し、携わっている人たちの思いを捉えている。	
社会参画に関する資質能力	B	1 ☆見通す力	・ 住田町の町づくりの取組の課題やこれからの取組についての探究の見通しや計画を、予想などをもとにしながら考えている		
		2 ☆多角的・多面的に考える力	・ 住田町の町づくりの取組の課題やこれからの取組について多面的・多角的に捉え、その意味を考えている。		
		3 ☆提案・発信する力	・ 住田町のこれからの町づくりについて、調査に基づいて自分の願いを発信している。		
		4 ☆好奇心・探究心	・ それぞれの町づくりの取組の課題やこれからの取組に関心をもち、積極的に探究している。		
		5 ☆困難を解決しようとする心	・ 町づくりの取組についての探究活動がうまくいかないときも、粘り強く、最後まで取り組もうとしている。		
人間関係形成能力に	C	1 ☆伝え合う力	・ 町づくりの取組について調査したことや町づくりに対する願いについて、質問をしたり意見をしたりして伝え合っている。		
		2 ☆協働する力	・ 町づくりの取組の探究や自分たちの願いの発信において、友達と検討を重ねたり自分の役割を果たしたりしている。		
		3 ☆他者受容	・ 町づくりに携わっている方や友達の考えの理解に努め、相手の思いを尊重しようとしている。		
自律的活動に関する資質能力に	D	1 ☆感じ取る力	・ 町づくりについての学習活動を振り返りながら調整して探究し続け、理解を深めようとしている。		
		2 ☆創出する力	・ 町づくりについての自分の考えを、感性や創造性を発揮しながら工夫して表現している。		
		3 ☆自己肯定感	・ 住田町の町づくりの取組についての探究活動を進めることができたことに自信を深め、今後の学習に生かそうとしている。		

単元の指導			(全27時間)					
月	小単元名	プロセス	時	主な学習活動		関連する教科・領域		評価項目 (評価方法)
8	住田町の町づくりの取組の課題	状態把握・問題の把握	2	・ これまでの学習をもとに、住田町の町づくりの取組の課題について考える。		国語「一番大事なものの」 C-1 国語「大切にしたい言葉」 D-1	・ B2☆多面的・多角的に考える力（振り返りの記述）	
		情報収集	2	・ 町役場の方から話を聞く学習会を開き、現在の町づくりの取組の課題を調べる。			・ A ◎地域理解（ワークシートの記述） ・ C1☆伝え合う力（チェックリスト）	
		実施・改善	1	・ 町づくりの取組の課題について、分かったことをポートフォリオにまとめる。			・ D1☆感じ取る力（ポートフォリオの記述）	
9	課題解決に向けた取り組みや	課題設定	1	・ これからの町づくりに対する自分たちの願いを発信する学習の見通しをもつ。			・ B4☆好奇心（ワークシートの記述）	
		計画・見通す	1	・ 自分たちの願いを発信するために、町づくりの取組をさらに詳しく調べる計画を立てる。			・ B1☆見通す力（チェックリスト）	
		情報収集	1	・ それぞれの課題の解決に向けた住田町の取組を予想する。			・ B2☆多面的・多角的に考える力（チェックリスト）	
			1	・ それぞれの課題の解決に向けた取組や、これからの取組を調べる学習会を計画する。			・ B1☆見通す力（チェックリスト）	
			2	・ 役場の方から話を聞く学習会を開き、それぞれの課題の解決に向けた取組やこれからの取組について調べる。			・ A ◎地域理解（ワークシートの記述） ・ C3☆他者受容（チェックリスト）	
			実施・改善	3	・ それぞれの課題の解決に向けた取組やこれからの取組について分かったことをポートフォリオにまとめる。		・ D1☆感じ取る力（ポートフォリオの記述）	
1	・ それぞれの課題の解決に向けた取組のよさや携わっている人の思いを考える。			・ B2☆多面的・多角的に考える力（チェックリスト）				
1	・ それぞれの課題の解決に向けた取組のよさについて、分かったことや考えたことをポートフォリオにまとめる。			・ D1☆感じ取る力（ポートフォリオの記述）				
10		1	・ これまでの調査をもとに、これからの町づくりについて考える。			・ D2☆創出する力（ルーブリック）		
		1	・ 住田町のこれからの町づくりに関する自分たちの願いを発信する方法を考える。			・ C1☆伝え合う力（ワークシートの記述）		
		1	・ グループごとに発信に向けての活動内容や役割分担を考え、発信に向けた計画を立てる。			・ B1☆見通す力（ワークシートの記述）		
		5	・ 自分たちの願いの発信に向けた準備を行う。			・ C2☆協働する力（チェックリスト） ・ B5☆困難を解決しようとする力（チェックリスト）		
11	これからの住田町への願い	2	・ これからの住田町の町づくりへの自分たちの願いを、地域の方などに発信する。			・ B3☆提案・発信する力（ルーブリック）		
		1	・ 単元の学習活動を振り返り、自分の探究活動を評価する。			・ D3☆自己肯定感（振り返りの記述）		
時数計		27時間						

○教科との関連

岩手県立住田高等学校 第1学年～第3学年 地域創造学 教科関連検討表(改訂版)

住田町教育委員会

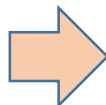


○学習指導要領解説地域創造学編の作成

学習指導要領解説

地域創造学編

平成31年3月



○児童生徒の主体性の重視

- ・ 主体性を生み出す学習課題の設定
- ・ 主体的な学びにつながる工夫

○地域創造学の特質を生かした学習指導の展開

- ・ 多様な学習展開（体験活動の重視、異校種の円滑な接続につながる学習）の工夫
- ・ 他地域や類似の事例にも学ぶ
- ・ 多様な考えを生かす言語活動
- ・ 地域創造学における6つの探究のプロセス

○評価の基本的な考え方

- ・ 教育達成測定
- ・ パフォーマンス評価の在り方
- ・ ポートフォリオの活用等

○研究開発における組織的な取組

就学前教育研究部会

生涯学習の基礎としての就学前教育における保育・教育の在り方を探る。スタートカリキュラムおよび接統期のカリキュラムを作成する。すみた就学前教育（保育）プランの見直し案作成。

（保育園長・園長補佐・保育士、小・中・高教諭）

評価検証部会

地域創造学の実践に伴い、ふり返りと評価の在り方（ポートフォリオ、パフォーマンステスト、キャリアパスポート等）について検討し、実践モデルを提案。

（研究主任）

学習指導検証部会

地域創造学年間指導計画を作成する。

森林・グローバル・いのちの学習研究部会の実践を生かし、地域との連携を促進する。

第1～5ステージに分かれ、各ステージリーダーを配置する。

（保育園長・教員・中高養護教諭）

学校カリキュラム検討部会

地域創造学を据えた教育課程全体を検討する。

各教科・領域での社会的実践力育成の在り方を含む。

次年度教育課程及び学校運営計画書作成。

（教務主任）

○地域との協働

地域創造学協力者会議



学校と地域の方々とで、
よりよい「地域創造学
のあり方」に関して協
議

- 地域創造学の目標や育成を目指す社会的実践力の共通理解
- 学校及び地域の思いや願いの共有
- 外部人材の効果的な活用のあり方等について意見交換

「カリキュラム・マネジメント3つの側面」 から見た地域創造学の実践

側面①

教育内容の組織的な配列

- ・単元計画の修正にかかわっての情報交流
- ・教育達成測定シート
- ・校内研相互交流会
- ・各部会の連携による単元計画の作成・修正
- ・運営指導委員会(外部有識者による指導助言)
- ・地域創造学協力者会議
- ・地域創造学コーディネーター
- ・森林環境学習からの学習財産の積み重ね
- ・校種間における地域人材(資源)の情報交流
- ・町職員研修

側面②

PDCAサイクルの確立

側面③

地域資源の活用

住田町立 有住小学校

研究主題

「よりよく伝え合い、深く学び合う児童の育成」
～多様な考えを生かす言語活動を通して～

滑らかな接続を意識した指導

「かかわり」を意識した指導



◎指導計画の作成にあたっての配慮事項には、(2)校種間の連携を図ることとして、

「地域創造学は、各地区内での学習に閉じることなく、住田町を学ぶという立場に立って、世田米地区の学校の児童生徒も有住地区を学び、有住地区の児童生徒も世田米地区を学ぶことの意義がある。」と記されている。



◎地域創造学の目標には、

「地域の中でふるさとの発展のために力を注ぐ人々から生きることや働くことを学ぶ学習」と記されている。

◎社会的実践力を構成する資質・能力「C人間関係形成に関する資質能力」では、「様々な人々とのかかわりを通して」と記されている。

「カリキュラム・マネジメント3つの側面」 から見た地域創造学の実践

側面①

教育内容の組織的な配列

- ・単元計画の修正にかかわっての情報交流
- ・教育達成測定シート
- ・校内研相互交流会
- ・各部会の連携による単元計画の作成・修正
- ・運営指導委員会(外部有識者による指導助言)
- ・地域創造学協力者会議
- ・地域創造学コーディネーター
- ・森林環境学習からの学習財産の積み重ね
- ・校種間における地域人材(資源)の情報交流
- ・町職員研修

側面②

PDCAサイクルの確立

側面③

地域資源の活用



実践例① 「地域資源の活用」

校内研修 「地域教材化研修」

実践例②

ゲストティーチャー(地域人材資源)の活用について

キーワードは、
「学習課題が
自分事になること！」





「ゲストティチャーを 活用した」授業場面

- 4年生
「すごいぞ住田！気仙川のために
みんなでできること」
- 5年生
「住田の宝 資源をいかそう」



〈2ステージにおける GTとのかかわり方の視点〉

(1) 学習課題をつかむ場面

(本時の導入 2)

- ・話の聞き方の視点を確認する。

前時までに出了た課題や、
作つた新聞の見出しを使いな
がら、GTと関わるというこ
とを意識させる。

本時の課題（視点）を再確認させる。

(2) 自分の考えをもつ場面（本時の展開 4）

- ・ワークシート記入の工夫
 - ①メモしたことから、人の思いや願いに関するところに赤線を引く
 - ②線を引いた部分について焦点化させて考えさせる。
 - ③教師や友達との対話から気付かせる。

発達段階に応じた

ステージごとの資質・能力を
意識した授業の組み立て

〈3ステージにおける GTとのかかわり方の視点〉

(1) 自分の考えをもつ場面（本時の展開 4）

- ・話を聞いて感じたことやさらに聞いてみたいことをワークシートに記入する。

(2) GTと交流して考えを深める場面（本時の展開 5）

- ・感想を話したり、質問したりする。

互いの考えを共有したり、
生かしたりするために
ペア学習を取り入れる。

- ・思いや願いに触れた感想や質問を意図的に取り上げる。
- ・児童がGTに直接かかわる場面を設定することで、人とのかかわりから学ぶということを意識付けさせる。
- ・GTや友達との対話から気付かせる。

○発達段階に応じたステージごとに付けたい力の例

(1) 「言語活動の工夫」

ステージ	各ステージで位置付けたい効果的な言語活動
第1	○主語と述語を明確にして、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○比較の視点(大きさ、色、形、位置等)を明確にして表現すること。 ○自分の経験と結び付けたり、判断と理由の関係を明確にしたりして表現すること。 ○話題に沿って話合うこと、互いの良いところを見つけて感想を伝え合うこと。
第2	○考えの共通点や相違点を整理し、話合うこと。 ○判断と根拠、原因と結果の関係を明確にして表現すること。 ○「例えば」「もし」等の条件文を使用して表現すること。 ○学んだ専門用語や概念を活用して、表現すること。
第3	○演繹法や帰納法等の論理を用いて表現すること。 ○規則性や決まり等を用いて表現すること。 ○互いの立場や意図を明確にして、意見交換すること。 ○学習した内容について、方法等を吟味して表現すること。

(2) 「思考ツールの工夫」

ステージ	各ステージで挑戦したい思考ツール(例)	
第1	ベン図 ブレインライティング ウェビング法	ホワイトボードでの整理分析
第2	Yチャート Xチャート ビフォー・アフター KJ法	
第3	メリット・デメリット ピラミッド・チャート SWOT分析	

学習指導要領解説「地域創造学編」より抜粋

* 第4・5ステージのものは、紙面の都合で省略しています。



東海新報: 令和元年11月27日紙面より

実践例③「校種間連携」

(これまでに実践してきた様々な形態)

- ・保小連携
- ・小小連携
- ・小中連携
- ・小高連携
- ・中中連携
- ・中高連携

「校種間カリキュラム・マネジメント」の視点 から見た本校の**成果**と**課題**

成果

- 共通財産の有効活用
- 地域資源の開発・活用
- 校種間連携の深まり

課題

- ◇町全体での情報の共有の
在り方の検討
- ◇教育内容の組織的配列の
見直し



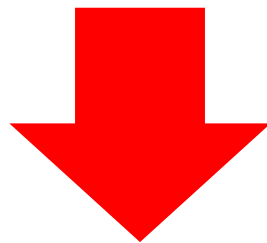
住田町立世田米中学校

【令和2年度研究主題】

社会的実践力を
身に付けた生徒の育成
～主体的・対話的な学び方を
身に付ける授業づくりをとおして～

地域創造学実践前の課題

小・中・高，各自でカリキュラムの実践

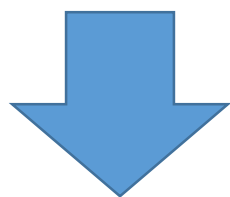


学習内容が重複してしまう…

学習の積み重ねが活かされない…

地域創造学の実践に向けて

小・中・高を一貫させる
カリキュラムの開発・実践



校種間における
カリキュラム・マネジメント

マネジメント① - 内容の整理 -

岩手・日本・世界

住田町・岩手

身近な地域



小学校

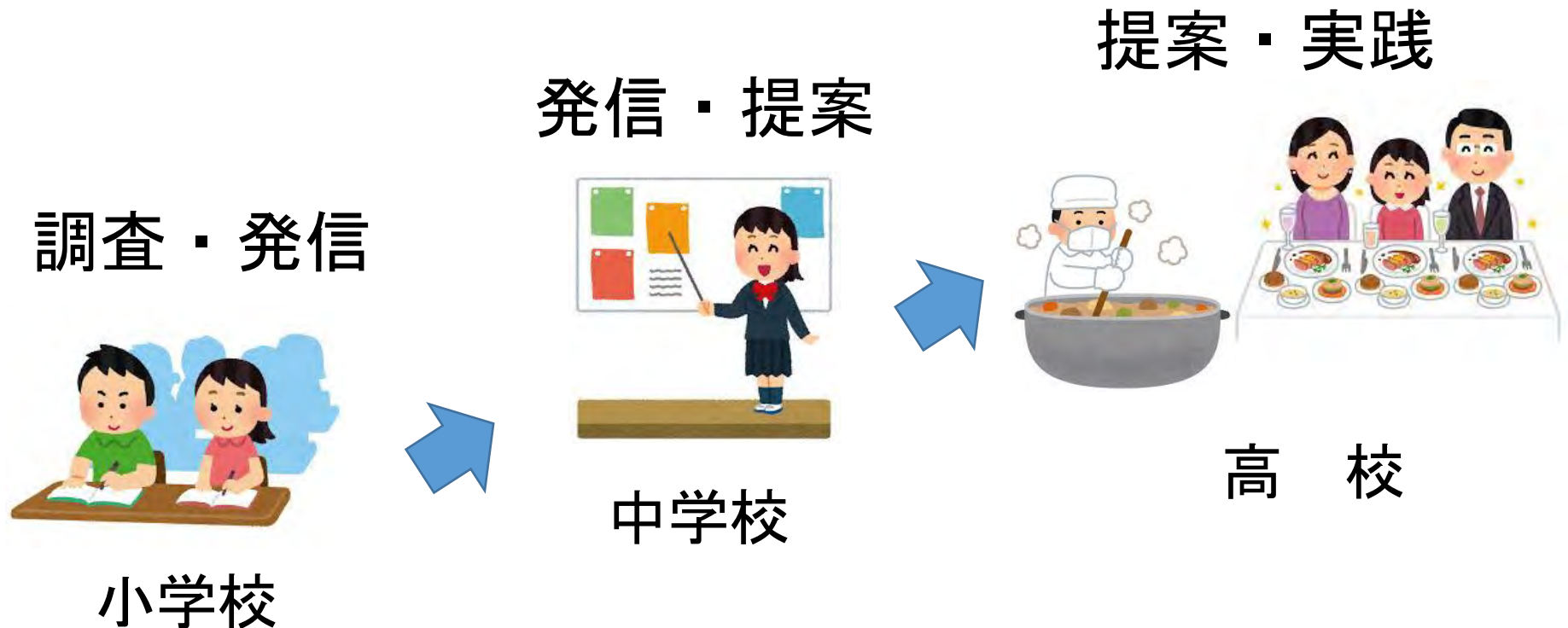


中学校



高校

マネジメント② - 探究方法の系統化 -



地域創造学の実践に向けて

小・中・高を一貫させる
カリキュラムの開発・実践



学習内容の重複を解消！

学習の積み重ねが活かされる授業展開！

中学校の実践例① - 世中3年生 -

小…町内の自然についての調査



中…木工作品の制作



高…（木材を活用した企画）



東海新報: 令和2年11月11日紙面より



高校での提案・実践も意識した実践

中学校の実践例② - 世中1年生 -



小…町内の自然についての調査



中…CMの制作・発信



高…（観光資源を活用した企画）

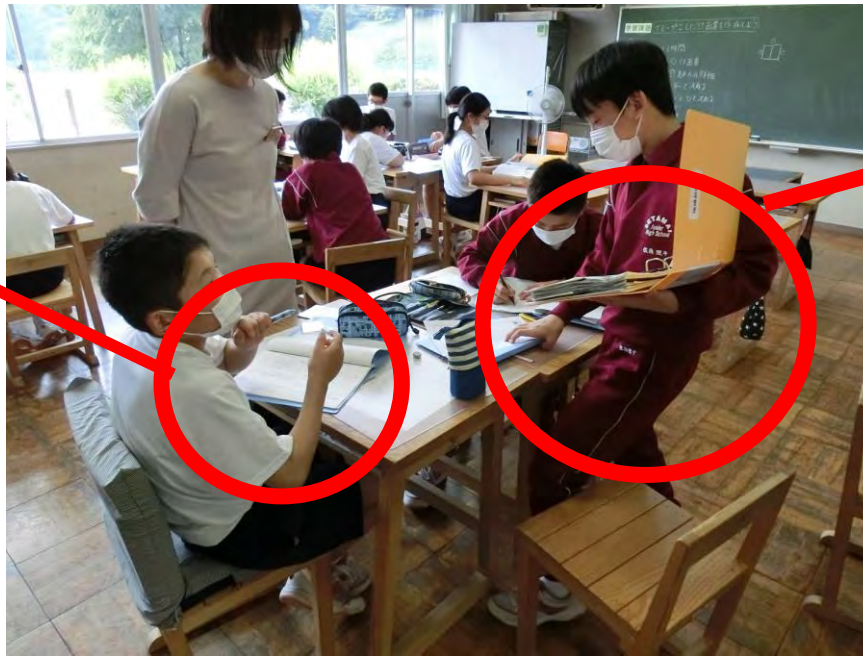


小学校での調査・発信を踏まえた実践

中学校の実践例③ - 全学年共通 -

ワーキング
ポートフォリオ
(1年分)

パーマネント
ポートフォリオ
(小学校～高校)



ポートフォリオを活用した学習の蓄積

成果と課題

成果

- ①内容 & 探究方法の系統化（スリム化）
- ②生徒の課題意識の高まり

課題

- ①中学校 3 年生と高校 1 年生の接続
- ②さらなる内容の精選

今年度の研究主題

常に課題を設定し、その時代に
合った価値を生み出す力

知を生み出す力・課題解決力・価値生産力の育成

岩手県立住田高等学校

学ぶ内容及び研究形態

☆生徒の興味関心のあること・学びたいこと→「主」
地域は「従」

◎生徒が自分の頭でしっかり考える。

- ◇ 1 学年（第 4 ステージ） 個人研究
- ♡ 2 ・ 3 学年（第 5 ステージ） グループor個人研究
ただし、学年の合流は無し

「地域創造学」以前



「総合的な学習の時間」



「地域創造学」(令和元年度～)

住田町教育研究所



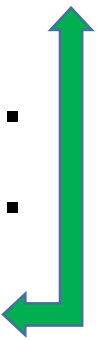
「社会的実践力」の育成
を目指した

カリキュラム・マネジメント

- ・ 地域に学ぶ
- ・ 環境問題を考える
- ・ 進路を考える 事業所見学
大学見学／インターンシップ
- ・ 健康で安全な生活の営みを考
える
- ・ 学年別課題設定→研究→発表
(文化祭)
- ・ 中高合同芸術鑑賞
- ・ 復興教育／国際理解教育
- ・ 主権者教育

総合での実践の積み上げを
活かしながら、単元計画、
効果的な指導方法や評価の
具体的指標等を開発

「地域創造学」 支援体制

- 1 教師の関わり方 「指導」ではなく「支援」
「先導」ではなく「伴走」
 - 2 「地域創造学」 研究部ミーティング
毎週水曜日 5 時限目
研究部主担当者及び教育コーディネーター (CN)
 - 3 地域人材の活用 住田町民・気仙地区民・町役場・
町内小中学校生徒・大学・企業・
住高ハウス〇〇 (スタッフ)
- 

研究プログラム

☆第4ステージ 「地域学習探究2020」

なぜ「地域創造学」？ ⇒ 地域課題研究 先ず意義を確認

- 1 住田町まち歩きの実施 6月
 - 2 レクチャー
 - ・ 調査研究の意義や方法
 - ・ フィールドワーク調査方法や注意点
 - 3 学習展開 調査活動→考察→まとめ→資料作成→発表
- 

☆第5ステージ 「すみハピ！プロジェクト2020」

住田で誰かを幸せにし，自分も幸せになるプロジェクトに取り組む。

1 年間の取り組み（概要）

・第 4 ステージ

- ①オリエンテーション
- ②レクチャー・まち歩き
- ③フィールドワーク調査活動
- ④発表会（3 回）
- ⑤調査研究レポートの作成
町役場に展示
来庁者閲覧
- ⑥振り返りまとめ
第 5 ステージをイメージ

・第 5 ステージ

- ①課題の発掘・研究構想
- ②フィールドワーク調査活動
- ③発表会（4 回）
- ④振り返りまとめ
2 年生 次年度探究の模索
3 年生 自己の研究体験から
下級生へ
アドバイス

生徒の調査研究テーマの例①

第4ステージ

「住田町まち歩き」

(6月:1年生全員参加)



- ・ 乳牛と肉牛の違いについて
- ・ 蔵について (小)
- ・ 住田町の伝統芸能 (小・中)
- ・ たたら製鉄 (小)
- ・ 釜石鉱山と栗木鉄山 (小)

※ 小:小学校 中:中学校 で既習



教育コーディネーター
(CN)の協力



- ・ 地域人材の紹介
- ・ アポイントメントのとり方練習

生徒の調査研究テーマの例②

第5ステージ

- カメムシ臭の香水
- 雑草を使った料理を食べる
- Project maple

住田のメイプルシロップの利活用

(昨年度卒業生からの引継ぎ研究<大学・企業との共同研究>)

- 「歌プロ」住田の名所を歌にする

(昨年度からの継続研究)

「歌プロ」住田の名所を歌にする（3年生7名）



県立住田高校（實野）の3年生7人が制作した住田町のPR曲『輝け住田』のPV（プロモーションビデオ）が、今後、町営ケーブルテレビ・住田テレビ

住田町制作のPR曲『輝け住田』のPV完成
元気よく歌声を重ねる

『輝け住田』のPV完成



で積極的にPRしていくほか、PVを収めたディスクは町教委、大船渡市のコミュニティFM「FMねまらいん」などにも贈られる。

地域創造学は、文部科学省による研究開発学校事業の一環。同校は平成30年度まで総合的な学習の一環として取り組んできたが、昨年度からは毎週水曜日に授業時間を確保している。

7月には、2、3年生が身近な地域課題解決や町のPRに向け、地域創造学で取り組む内容を示す構想発表会が開かれた。

この中で、長谷川馨彦さん、古川くさみさん、曾野ひなたさん、新沼由唯さん、佐々木PVでは3年生7人が歌声を重ねて住田をPRしている。

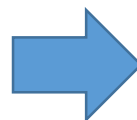
美月さん、大山落さん、関根惟聖さんの3年生7人が「うたプロ」住田の名所を歌にする」とのテーマを掲げて、夏休み明けから活動を開始。

作詞に当たっては、校内のほか町内の小学校を対象にアンケートを実施し、児童・生徒が思う住田の好きな所などを調査した。

生徒たちは、アンケート結果と自分たちの持ち寄ったアイデアをもとに作詞に挑戦。歌の中では「耳をすますと森や風がささやいてる」「大きく流れる気仙川、そこに流れるあゆの群れ」といった自然の豊かさだけではなく、「すてきな笑顔がたくさん輝くよ」「人と人が寄りそうあたたかさ」など、住田の人の温かさも伝えている。

東海新報：令和2年9月27日紙面より

- 主体的な課題設定
- 教師や地域との協働
- 探究のプロセスの往還



自分たちなりのゴールへ

中高連携の在り方

☆校種間の滑らかな接続を目指して

「地域創造学」 中高連携事業ステージ交流会

○住田町立世田米中学校＜12月9日（水）＞

○住田町立有住中学校＜12月16日（水）＞

両校に

第5ステージ代表発表生徒及び1年生1クラスを派遣

成果と課題

成果

- ①学校設定科目としての「地域創造学」週1単位での実施

LESSONプランの作成と担当者ミーティング

- ②貴重な体験活動の機会 フィールドワーク調査活動
- ③「地域創造学」への取り組み意欲の増大

課題

- ①中高連携の在り方＜第4ステージ＞
- ②年次の違いによる「地域創造学」の捉え方＜第5ステージ＞

○これまでの研究開発全体の成果と課題

成果

- ・ 住田町独自のカリキュラム開発及び実践
- ・ 児童生徒の変容
(主体的な課題設定、地域に関わる探究意欲や発表場面での相手意識の高まり等)
- ・ 指導者の意識の高まり
(小・中・高の垣根を超えた単元計画や指導方法等に関わる改善意識の高まり)
- ・ 部会を中心とした組織的な取組
- ・ 地域との協力体制の確立

課題

- ・ 社会的実践力を系統的に育成していくための単元計画の作成
- ・ 児童生徒の主体性を大切にした系統的な指導方法の追究
- ・ 各評価場面に応じた適切な評価方法の追究
- ・ 効果的かつ持続可能な異校種間連携の形の追究

○今後の見通し

- 令和元年度から実施している**教育達成測定**の分析
(児童生徒にどのように12の社会的実践力が身についているのか)
- 地域創造学に関わる保護者、地域、教員へのアンケートの実施(今年度末)
- 単元計画の修正作業(令和4年度に大改訂を予定)
- 社会的実践力の系統表や指導・評価方法の見直し
- 地域創造学教科書(探究の手引き)の作成

※持続可能な取組にしていくための取組の精選

学校公開研究会の予定 (指定最終年次)

令和3年 9月29日(水)

会場 住田町立世田米小学校
住田町社会体育館

小・中・高の10授業を公開予定